福岡県　グループホームなびき
平成　27　年度

平成27年11月19日

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4095500015		
法人名	社会福祉法人　清浄会		
事業所名	グループホーム　なびき		
所在地	福岡県宮若市下有木1507－1		
自己評価作成日	平成27年10月20日	評価結果確定日	平成27年11月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設13年を迎え、理念である「みんなで　その人らしさを大切に　笑顔で寄り添う」を毎朝唱和し、意識しながら利用者様に接している。自然豊かな環境の中の散歩や、畑仕事、花壇の手入れ、ホーム内では食事の支度や配膳、片付け、掃除、洗濯物干しなど生活リハビリを中心に役割を持って頂きやりがいをみつけたり、趣味の絵画、書道、碁、将棋、貼り絵などを楽しまれている。又、毎朝の体操や、音楽クラブでの季節にあった歌の合唱、同法人のデイの方と一緒に、カラオケや、民謡教室、誕生会では地域の方との再会や、苑での合同行事の敬老会などとても楽しんで参加されている。外出行事では皆さんの馴染みの場所や、季節を感じられる場所、買い物行事、地域の催し物に参加し、社会との関わりを多く持つ環境を支援している。医療面においても、地域医療と連携をとり、情報交換も密に行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

「目配り、気配り、こころ配り」が今年度の隣接施設等と共通の方針として掲げられ、委員会のスローガンが事務所に掲示され、理念のその人らしさをリスクを考慮しながら支援している。詳細なモニタリング結果を本人にとってはどうかとの視点で話し合い、職員が笑顔を絶やさないケアで、常に荷物を抱えた入居者も落ち着いて生活できる時間が増えたり、夜間のトイレ誘導の睡眠への影響を検討し、最も適切な支援を実施している。併設施設等と合同の行事は、入居者の発表の場や地域交流の機会になり、企画・運営に関わった職員が、達成感を感じられるように支援している。家族の日程に合わせて開催される運営推進会議は、多様な意見交換の場となり、家族から行事の協力の申し出もあり、今後も理念を具現化したサービスが期待できるホームである。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：25,26,27）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：51）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,21）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
		○	2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名　**1号館／グループホームなびき**

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で唱和意し、お一人お一人その人らしさを大切に、笑顔で対応出来る様意識し、接している。	「目配り、気配り、こころ配り」が今年度の隣接施設等と共通の方針として掲げられ、委員会のスローガンが事務所に掲示され、理念の実践に努めている。リスクを考慮しながら、その人らしさを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設へ、通リハと合同のカラオケや、民謡教室へ参加し、近所の方が来られたり、地域の先生による書道教室、地域の行事へ作品の出展や観賞に参加たり、地域企業、小学校なのど研修の受け入れ、交流をしている。	地区老人会等が開催する展示会に入居者の作品を出展することや、見学に出かけることが恒例となっている。隣接施設やデイケアとの合同行事は地域交流の場となり、調査日も発表会に向けて楽器を使ってカラオケの練習に励んでいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設での認知症の研修をしたり、認知症サポーター研修に参加し、地域の人への支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の開催。利用者、家族、包括、警察、地域の方、他施設の所長、職員など参加し、行事の取り組みや、事故報告、対策などの説明、利用者様の状況などの報告など行い、参加者の意見や、情報など頂き活かしている。	前回の運営推進会議は家族会と同日に開催している。参加した家族からは、家族が高齢で将来が不安であることや、行政が職員の雇用を安定させる支援をしてほしいなど率直な意見が出された。会議録を玄関に公表している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や、GH宮若での取り組みやふるさと祭りなど市の協力を頂いている。	家族の日程に合わせて開催される運営推進会議に市職員が参加したり、家族会の講師をお願いするなど、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リスク委員会を中心に身体拘束しない対応の取り組みを行なっている。苑内外研修への参加、伝達講習を開催したり、朝礼時コンプライアンスの唱和を行い意識付けを行なっている。玄関は外出傾向の方の対応としてセンサーを設置している。夜間帯は遅出が帰宅時施錠。	無断で散歩に出かける入居者もあり、玄関に置いてある携帯電話を持参し、迅速に対応している。以前入所していた隣接施設が行先の入居者もある。ダメや待ってを言葉の拘束と理解し、「10分待ってもらっていいですか」など、了解してもらえる言葉遣いに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	苑内外の研修に参加や、ミーティングを行なう、朝礼時、コンプライアンスルールを唱和し、意識付けをおこなっている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内外の研修に参加したり、ミーティングを行ってる。家族会などでも市役所のかたからの説明をして頂き、必要時は支援を行っている。	現在は日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用者はない。事業や制度に関する資料を整備し、入居時や家族会で説明している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の際は、利用者や家族等の不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回家族全体の家族会の開催や、運営推進会議、面会時等に相談や意見を受けることがあり反映している。	家族会を開催し、8月の開設記念日は、家族と運動会や食事を楽しんでいる。新規入居者の家族に運営推進会議の参加をお願したところ、快諾を得ている。管理者は多様な視点の意見や行事の協力の申し出もあると話している。	毎月発行されている便りに、運営推進会議内容を掲載され、さらなる意見を表出する機会を創られることを期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設での代表者会議や、苑ミーティング、ホームミーティングなどを行い、意見や提案などを聞き、反映させている。	男性職員の育児休暇申請を受け、隣接施設の協力を得ながらどのように支援するか、話し合いを重ねている。職員の提案で入居者がゆっくりトイレ利用が出来るように夜勤帯で掃除をしたり、夏場に汗で臀部に掻き傷を作る入居者には、就寝前に陰臀部を洗浄している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の参加や、資格習得の為の勉強会なども開催し、各自が資格習得を目指し向上心を持ち参加できる環境を整えている。又資格習得による昇給もある。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用に関して性別や年齢など関係なく採用している。又事業所で働く職員も60歳が定年だが希望だあれば延長している。研修の参加なども支援している。	職員は30歳から60歳と男女で年齢に幅があり、出産で退職した職員が再雇用されている。介護福祉士等の有資格者が多く、育児休暇の取得も支援している。併設施設等と合同の行事では職員が企画・運営に関わり、達成感を感じられるように支援している。また、職員同士の仲が良く、急なシフト交代にも協力的で、生き生きと就労できる職場となっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	接遇委員を中心に苑内研修を行なったり、外部研修に参加して、事業所内で伝達講習などを行なっている。	隣接施設等と合同で作成した研修計画に基づき、人権研修を実施している。夜勤等で研修に参加できない職員には、資料に目を通すように促している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員の力量を把握し、外部研修の参加をうながし、や、働きながら技術向上行なっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH宮若での交流や、研修参加などを通じてサービスの質を向上させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式を取り入れ、本人様の困っている事や、不安な事、要望などに耳を傾け、本人様が安心できるよう信頼関係を築く様努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前での面談時や、契約説明時など、家族の困っている事、不安な事、要望などに耳を傾け、関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前での面接時、契約説明時、診療情報なども参考に必要な医療や精神面などの必要なサービスを見極め支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に食事をし、一緒に暮らす家族のような関係であり、お互いに癒されたり、励まされたりしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族は情報を共有しながら本人様を共に支えて行く関係を築いている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式を利用しながら馴染みの場所を外出計画にしたり、家族の協力を得ながら、食事やパーマ屋さんに行かれている。	入居者に馴染みのある場所で桜の花を見物したり、馴染みのある地域の名所に出かけている。大型ショッピングモールに出かけた折は、参加した家族と買い物や食事を楽しむ入居者もいる。また、隣接施設やデイケアとの合同行事は、馴染みの人との交流する場となっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で対話されたり、食事の配膳など動けない人のを運ばれたりして、支援できる環境作りを作っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為退所された方なども面会に行き家族本人様と関係を続けながら、今後の相談など乗り支援している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時や、契約時に本人様、家族の希望を介護計画の中に入れ込み支援している。困難な場合はアセスメントなどの中から導き出している。	センター方式の心身の情報シートを整備し、把握した情報を共有している。毎月送付している便りは担当職員がメッセージを記載し、家族からの情報提供を促している。外泊後、暴言のある入居者もあり、家族と話し合う予定である。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式を利用し、家族から聞き取りを行う。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1ヶ月評価など参考にし、状況に応じて出来る、出来ないを把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファを行い、職員の意見や、アイデアなど取り入れ、家族に説明など行いプラン反映している。	担当職員が実施した詳細なモニタリング結果を本人にとってはどうかとの視点で話し合い、現状に即した介護計画を作成している。常に荷物を抱えた入居者に職員が笑顔で接するケアを実践し、笑顔で演歌を歌うなど落ち着いて生活できる時間が増えている。	把握した家族の意向を担当者会議で話し合っているので、検討項目に代弁した内容を記載し、さらなるチームケアの推進を期待します。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	時系列を基本にし、ケアプランの内容は青、家族との対話はピンクで囲むなど情報、伝達に勤めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護、病院受診、併設施設の栄養管理士、リハビリのOT、PTからの助言など頂き、支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護、病院受診、地域で行われる展示会に作品を出品したり、見学したり、地域の小学生や、企業などの交流を深め皆で支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力関連施設でもある病院の訪問診療を受けている。緊急時も受けていただけるよう連携をとっている。	自室で転倒し、顔面を打撲した入居者の受診を早急に支援し、異常なしの診断を受けているが、年齢等を考慮し、MRIを受けるために医療機関に職員が同行している。協力医療機関は系列であるため、緊急対応も円滑である。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の異常時は看護師や、訪問看護師に相談し、受診できるよう連携を取っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護添書を作成し、継続したケアが受けれるよう情報交換や、病院のソーシャルワーカーさんや、訪問看護師と連携を取っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者様の家族と話し合い、事業所の出来る事を十分に説明し、方針を共有し、地域医療とも連携し支援している。	ここ1年間で4名の入居者が医療機関で逝去され、家族からここで良かったと謝辞の言葉を頂いている。昨今終末期と診断されて入院された入居者もあるが、ぎりぎりまでホームで生活ができるように支援している。看取りには夜間の訪問診療や職員体制、家族の協力が必要と管理者や職員は話している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	苑内研修での緊急時の対応や、マニュアルを作成し、緊急時や事故発生時に備えている。又、防火委員を中心に、消防署とからの緊急処置の訓練を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火委員を中心に消防署と連携した消防訓練や、緊急連絡網の訓練を実施している。併設の施設の職員も参加し実地している。	防火委員会が設置され、隣接施設の協力を得るシステムがあり、合同で救急蘇生法も学んでいる。避難や消火訓練などを実施し、運営推進会議で報告している。職員は、風水害時の市指定の避難所も理解している。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎朝朝礼でグループホームの理念や、人権尊重の唱和を行い意識付けをしている。	入居者に対する声かけや対応に関する心得が共有空間に掲示され、全職員で実践に努めている。食事中に、「今日帰ろうか、明日がいいかねー」との呼びかけに職員は笑顔で「明日にしょうね」と穏やかな声かけや対応をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の生活の中で、利用者様が自己決定出来るよう環境作りをしている。手伝い、入浴、軽作業など本人様の希望も踏まえプランに入れている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調やその方のペースに合わせた食事時間、入浴日などにしている。レクリエーションなどの参加の意思の確認をしている。自室にテレビの設置も希望する方は設置し、観ている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時、外出時など職員と一緒に本人様の希望も踏ま選んでいる。誕生月に家族の方が洋服の贈り物をして、お化粧し参加したり、敬老会や夕涼み会などでは着物や、浴衣等を着れるよう支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会を中心に、嗜好調査を行いメニューなどに活かしている。食事の盛り付け、準備、配膳、片付けなど職員と一緒に行う。	ユニット間に仕切りを設け、入居者の状況に応じてテーブルを分けるなど、ゆっくりと食事を楽しむ環境づくりで、完食する入居者がほとんどである。開設記念日に、入居者の希望で職員が手作りした大きめチーズハンバーグは好評であった。下膳をする入居者も多く、洗いやすいように厨房のカウンターに同じ形の食器を重ねている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスを考えたメニューで、水分は記録し1日を通じて確保出来る様支援している。水分摂取量の少ない方はぜりーにしたりこまめに摂取して頂く。食事形態はミキサー、刻み、とろみなど必要な方は支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、声かけ、見守り、介助の必要な方など本人様に合わせて支援する。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、昼間、夜間声かけを行い失敗を防ぎ自立出来る様支援している。	最初の一歩が出ない入居者も、トイレで排泄できるように移動を支援している。夜間のトイレ誘導については、必要性や睡眠への影響はどうかなど、最も適切な支援とは何かをカンファレンス等で検討している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保、食事、運動などの声かけなど行う。又、個々によっては、看護師と連携をとり、便秘薬などで調整を行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その方に合わせた入浴を行っている。又、草取りや、畑作業など汗をかいた時なども行う。体調不良の方は、清拭や足浴、ドライシャンプーなどを行っている。	毎日入浴できるが、入居者によって3日または2日毎に入浴したり、失禁等には臨機応変に対応している。入浴を拒否する入居者には、洗濯物を干すついでとか、衣服を脱いで体重を測るなどの工夫で入浴を支援したり、外泊時に家族に入浴をお願いしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。眠れない時は職員とコミュニケーションをとったり、昼間の散歩や日光浴を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。薬の変更時は朝礼などで報告、伝達し、薬情報はいつでも確認できる。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心に役割を持って頂き、張りや喜びのある生活や、将棋や、碁、風船バレーや貼り絵など作品は地域の作品展に展示し、見学に行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外へ出かける方には寄り沿って一緒に散歩に出かけるよう支援している。又、遠方は外出行事として出かけている。又、家族の方の協力を得て自宅に帰宅したり、出かけて気分転換を行っている。	散歩したいと無断で外出する入居者には見守りながら同行している。季節の花見や地蔵参り、巨大門松見学など地域の名所見学は恒例になっている。家族参加で他市のショッピングモールに出かけ、ショッピングや外食を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物行事などでは、ご自分で支払える方はご自分で支払える様支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話など出来る方は支援している。はがきなど書いて頂き家族の方に出している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外光や、外気温の調整に心がけている。玄関や、洗面所などでは、季節の花などを生け、リビングなどの壁には利用者様の手つくりの季節の貼り絵や、書道などを飾っている。	今年も入居者と掘った芋が、新聞に包まれて玄関に置かれた椅子の下に保存されるなど、季節を感じさせる風景となっている。共用空間は空調や防臭を管理し、発表会に向けてカラオケの練習に励んだり、大型テレビで先日の家族運動会のビデオに見入る入居者も多く、寛ぎの場となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自分の席や、ソファーで他者と談笑したり、利用者様のお部屋でお話することもある。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅より、箪笥や時計、写真、ラジオ、お位牌を持ってこられ、お花を生けたりもされている。	居室の入り口はかまぼこ板で作った自作の表札が掛けられプライバシーへの配慮で暖簾を掛けている居室もある。床はフローリングや畳等個々の希望である。自宅からの写真や家具などもあり、本人が居心地よく過ごせる配慮がされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室に大きな暖簾や、表札をかけたり、トイレを大きく表示し分かり易くしている。又、大きな日めくりカレンダーで日時なども分かるよう支援している。		